

目的 東北地方にみる刺し子技法の目的は、ぼろの補修と意図的文様の構成にあると考  
える。刺し子文様の種類は、幾何文、自由曲線文、文字文など服飾着用の目的に依りて様  
々であるが、中にユニークな絣文がみられる。刺しは元來縫い刺しという基本的技術から  
離れられず、細かに縫い刺しを並べてゆけば絣風にみえるのは当然である。しかし、この  
度収集した童着、裯纏の中には、その技術以上に意図的に絣文が刺されていたものが多く  
みられたので、如何なる意図で絣文が刺されたのか考察を試み報告する。

方法 絣文刺し子の収集物に対する聞きとり調査、絣についての文献などより検討。

結果 絣の発生については詳らかでないが、日本には西紀574年頃インドネシアあた  
りから 中国、韓国を経て入ってきたといわれているが、その「カすり」の意味も、括る  
、締める、縛るという技術語から出たものや、中国の朝霞、中央アジアの汗朱子、即ち太  
陽のイメージから出てきたといわれるものなどがある。この絣にみる太陽の象徴文は、日  
光の少ない東北では「生」にかかわる憧憬となり、絣を着用することによって太陽 即ち  
生を獲得し、太陽と共存出来る喜びや、それを被っていることによる人間守護意識と結び  
つき、子供の衣服に意図的に刺されることになったと推考する。収集した童着には、縁起  
出世文と絣文を組合せて文様を構成したもの、土台となる生地9福寿長生文を生じて絣文  
様にしたもの、細かい切れを縫ぎ接ぎしてその上に刺しを行い絣風にみせたものなどがあ  
り、何れも絣文に執着し、絣のもつ象徴性を衣服に生じ、衣服着用の意義として扱い、衣  
服と刺しのあり方の原点を表示していることがみられた。